

## 国民健康保険料の引き下げを！

### 累積赤字等の活用

**議員** 国民健康保険料の引き下げ等を求めて1500を越す団体から署名が提出されている。

一般会計からの繰入金増額やこれまでの累積赤字68億円の活用等により、保険料を引き下げざるを得ないか。

**保健福祉局長** 国民健康保険の保険給付費は保険料と国や県の支出金で賄うのが原則である。しかし、本市では、これまでも一般会計からの多額の法定外繰入金を計上している。

また、これまでの累積赤字のうち、前期高齢者交付金の精算等を行うと、剰余金の残額は約25億円となるが、保険者として、保険給付を確実に、安定的な運営を行うためには、一定の剰余金を確保することが必要である。以上のことなどから、平成22年度予算案において保険料を引き下げることについては考えていない。



## 航空機産業で北九州を元気に！

**議員** 麻生知事は、北九州空港の活性化対策として、航空機産業の誘致を積極的に行うと述べたが、市長は本市における航空機産業について、どのような展望を持っているのか。

**市長** 航空機産業は、関連する産業分野が多く、すそ野の広い高付加価値型の産業である。航空機産業が誘致できれば、新たな雇用の場の創出と本市の産業の高度化につながることを考えている。

また、本市は技術力の高い製造業の集積、学術研究都市の研究機能など航空機産業の参入に関し優位性が高い都

市である。

しかし、誘致における自治体間の競争は激化しており、福岡県との連携は不可欠である。そこで、来年度発足を予定している福岡県航空機産業振興会議では、本市も歩調を合わせて取り組むこととしている。

今後は、航空機産業を自動車や半導体にくみこみ成長産業と位置付け、積極的に誘致活動を進めていく。



北九州空港

## AEDの使用方法を普及させよう！

**議員** 市民全員がAED（自動体外式除細動器）の使用方法を学べる機会を提供すべきと考えるが、これまでに実施した講習会の実績と今後の普及計画、さらに、使用方法を忘れないための計画的な再講習の必要性について見解を尋ねる。

**消防局長** 本市では、平成17年度から市民に対し、救命講習の中心でAEDの使用方法を指導してきた。その結果、昨年末までの受講者数は、約16万人となっている。

今後の普及計画としては、AEDを設置している公的施設などで実施する救命講習等を通して、AEDの普及事業を推進していきたいと考えている。

いざというときに自信を持ってAEDを使用するためには、救命講習の中

で繰り返し学ぶことが重要であることから、あらゆる機会をとらえ市民に再受講を呼びかけるとともに、講習の時間や場所等を工夫し、定期的に受講しやすい環境を整えていきたい。

## 増設しないの？ 特別養護老人ホーム

**議員** 特別養護老人ホームの入所待機者は増え続けている。施設の整備計画の前倒し等による緊急な整備が必要ではないか。

**保健福祉局長** 特別養護老人ホームの整備は、国の施設整備の基準を参考に、次期計画分を一部前倒しして当初計画の整備数を設定した。今回、この当初計画の整備数に、次期計画分をさらに前倒しして、合計704人分の増を計画している。

同ホームの整備に当たっては、比較的重度の利用者を見込んで整備数を設定している。これは、同ホームの入所者のうち食事や排せつなどに全面的な介護を要する要介護4と5の重度の方の割合を70パーセント以上とする国の参考基準に沿ったものである。

本市の整備計画数704人分は、市内の在宅待機者のうち、要介護3および要介護4と5の方の合計585人に十分対応しており、さらに前倒しして整備することは考えていない。

## 小中一貫・連携教育を推進しよう！

**議員** 5中学校区を選定して小中一貫・連携モデル推進事業を実施する予定と聞いているが、今後、同事業をどのように展開していくのか。

**教育長** 小中一貫・連携教育の推進は、義務教育9年間の教育課程等を一体的に考え、児童生徒の発達や成長の過程に応じて、小中学校が連携してさまざまな課題に対応するもので、中一ギャップの解消だけではなく、学力の向上等の効果が期待できる。

平成22年度に5中学校区で取り組む

モデル事業は、まずはタテ系統である小中学校での連携を中心として始め、新たな取り組みの開発なども検討していく。

また、モデル事業の推進に当たっては、これまでの経緯や地域の特色などを考慮して、具体的な連携策に取り組むことになる。さらに可能な中学校区では、家庭や地域との連携の構築等、ヨコの連携にまで踏み込んだ取り組みを進めていきたい。

## 環境と経済の両立を目指して

**議員** 本市の経済を支える大きな柱として環境産業を育てることに期待しているが、今後、どのように環境と経済を結び付けていくのか。

**市長** 昨年3月に策定した北九州グリーンフロンティアプランは「環境が経済を拓く」を柱の一つにしており、環境付加価値の高い産業構造へ変革する「環境の産業化」を図り、環境と経済の融合する社会の実現に取り組んでいる。

このような動きを加速するために、まず、「緑の公共事業」から取り組むことにしている。例えば、魚町の太陽光パネルアークードなどの整備が、地元企業の工事の受注につながることも、太陽光の設置ビジネスに関するノウハウが蓄積しつつある。

今後、この事業を積極的に進め、地域経済の浮揚に取り組んでいきたい。

\*北九州グリーンフロンティアプラン  
北九州市環境モデル都市行動計画

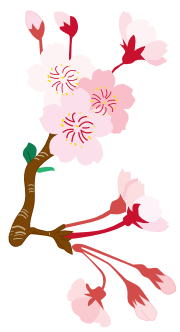
## 子ども・家庭相談コーナーの充実を！

**議員** 区役所の子ども・家庭相談コーナーは、係長1名と嘱託相談員の体制であり、児童虐待の通

報を受けた場合の安全確認のための体制としては十分ではない。正規職員を他都市並みに増員するとともに、専門職を配置すべきではないか。

**子ども・家庭相談コーナー家庭局長** の相談員には、公募により熱意のある、知識と経験の豊富な人材を嘱託職員として採用し、採用後もさまざまな研修を受講させるなど、そのスキルアップに努めている。

平成19年度からは、相談員を総括する係長級の職員を各区分に1名ずつ配置するなどして体制の充実を図ってきた。また、市民サービスの向上を図るため、現在、正規職員を各区分1名増員して配置する方向で調整をしており、今後とも、関係機関と密接な連携を図り、きめ細やかな対応をしていきたい。



## 漫画で小倉駅北口の活性化を！

(仮称)北九州市漫画ミュージアム

**議員** 漫画ミュージアムの開設場倉ビルが選定されたが、その理由と今後の整備計画を尋ねる。また、将来の採算性と、関連施設との連携についてはどう考えているのか。

**市長** 漫画ミュージアムの開設場所については、交通の利便性とコスト面などを考慮して候補地を探してきたが、小倉駅北口の周遊性を高め、地域の活性化に寄与できることなどから、同ビルに決定した。平成22年度に設計、平成23年度には内装工事等を行い、平成24年度当初にオープンさせたいと考えている。

また、漫画関連の店舗等が集積するビルに入居することで、テナントと共同イベントやPR等を行うことにより、相乗効果による採算性の向上も図

れると見込んでいる。さらに、全国の漫画関連の施設と連携し、共同企画展を開催するなど、常に新しい企画を展開していきたい。

## 成人祭で模擬投票を実施しては？

若者の政治参画の推進

**議員** 投票体験などの選挙啓発キャンペーンを成人式で実施している都市がある。楽しみながら選挙の仕組みが分かる他都市の取り組みを参考に、本市の成人祭でも模擬投票を実施してはどうか。

**選挙管理委員会事務局長** 本市でも、若者の投票率の向上のため、市内の大学生と意見交換を行い、その意見を選挙啓発に生かすなど、工夫を凝らした啓発活動に取り組んできた。

新成人に対しては、有権者としての自覚や直近の選挙での投票参加を訴えるため、成人祭の式典などとは別に、会場の一角で選挙の仕組みを説明したパネルの展示などを行ってきた。

また、成人祭の会場での模擬投票については、投票記載台や投票箱の設置などに一定のスペースを確保できるかなどの課題もあることから、他都市の実施状況などを調査研究し、効果的な模擬投票について検討していきたい。



成人祭会場での選挙啓発イベント